

Evelyn Waughの作品に見られるDickensの影響

山崎 麻由美

Evelyn WaughはDickensを幼いころから愛読していた。その為彼の作品にはDickensの影響が随所に見られる。ことにWaughの処女作*Decline and Fall* (1928)にはCharles Dickensの影響が色濃い。この作品はDickens27歳の作品*Nicholas Nickleby* (1839)と物語の枠組み、登場人物像など似ている点が非常に多い。しかしまた約100年の隔たりのため、Dickensとの類似点は様々に形を変えて作品上に現れているのである。両作品を比較することでWaughがDickensから受けた影響がどのような形で作品に反映されているかが明らかになる。

まず両作品とも、親の庇護のない貧しい青年が様々な試練を経て成長していく「教養小説」の範疇に入れることができる。またそこに描かれている滑稽で愚かしい登場人物たちは、描かれ方が非常に似ている。名が性格を表し、身体的特徴や性格が誇張され笑いを生み出しているのである。これは明らかにWaughがDickensの手法を真似たものといえるだろう。*Decline and Fall*の滑稽な場面はまさにDickensの作品を髣髴させる。

しかし小説のタイトルが示すとおり、*Decline and Fall*は上昇の物語ではなく落ちていく物語であり、そこが*Nicholas Nickleby*との大きな相違点である。主人公はPaul Pennyfeatherという名が表すとおり世間から非常に軽んじられている。彼は無実の罪を着せられてOxford大学から放逐されることを振り出しに、最後には刑務所に入れられてしまう。艱難辛苦の末、幸福をつかみ取ったNicholasの対極にいる主人公である。この皮肉な相違は*Decline and Fall*が19世紀に愛読された「教養小説」のパターンをそのまま踏むことができなかったことを示している。*Nicholas Nickleby*が書かれたのはヴィクトリア時代の黄金期である。第一次世界大戦を経たイギリスは翳りが濃くなり、単純な幸福物語を手放しに受け入れることが出来なくなっていたのであろう。同様に描いている内容は同じでもヴィクトリア時代の価値観と大きく異なる部分がある。ひとつは「死」の描かれ方である。*Nicholas Nickleby*で親のない哀れな子どもが亡くなる場面を、Dickensは非常に感傷的な言葉を連ねて描いている。それに反して*Decline and Fall*でWaughは子どもの死に際を一切描写していないし、それどころか母親さえ我が子の死に冷淡なのである。また19世紀の重要な価値観であった「紳士であること」もWaughの作品の中では大きく崩れている。Nicholasが貧しくても「紳士の息子」であることを誇りに思い、ひどい境遇でもそれを支えに生きていったのに比べ、Paulはすぐに紳士たる誇りを捨ててしまう。そのことは規範になるべき「父親像」の欠落にも繋がっている。*Decline and Fall*に登場するのは社会規範を大きくはずれた父親像ばかりである。これは20世紀になって家父長制が崩れてきたことを示しているのである。

このようにDickensから受けた影響は、時代の変化とともに皮肉な形を取ってWaughの作品に現れているのである。